信大病院21C

ハミング

No.71
2015.6.25

基本理念　本院は診療・教育・研究を遂行する大学病院としての使命を有し、また患者さんの人権を尊重した先進的医療を行うとともに、次代を担う国際的な医療人を育成する。

主な記事

●新戦力！～新規職員紹介～ …… 2～3
●臨床研究支援センター教授の挨拶 …… 4
●信州がんセンター緩和部門教授の挨拶 …… 5
●輸血後の感染症検査について …… 6
●「げんきのまど」を設置しました …… 6
●東6階 病棟の紹介 …… 7
●ご意見函からの声 …… 7
●電話番号表・編集後記 …… 8

新戦力！～新規職員紹介～

新年度になり、たくさんの職員が信州大学医学部附属病院に入職いたしました。

そんな新規職員の抱負をご紹介いたします。みなさんといろんな場面でお会いするかもしれませんが、どうぞよろしくお願いいたします。

私はこの１年間、卒後研修技師として臨床検査部の各部署を周り、幅広い知識や技術を学びます。その後は、専門性を高めながら卒後研修後期課程として博士課程への進学も考えています。ルーチンでのノウハウを学びつつ、先輩の研究の補助として研鑽を積みたいと思っています。九州で生まれ育った私が長野の冬の寒さに耐えれるかどうかという不安はありますが、今ある熱い思いを絶やさずに日々多くのことを学び成長して行きたいと考えています。

臨床検査部
山中　万次郎

私は、深い思いやりを持った診療放射線技師を目指します。診療放射線技師は多くの患者さんや医療スタッフと関わる仕事であるため、相手のことを考える気持ちが大切です。本院の目標でもある命の尊さと心身の痛みがわかる人間性豊かな医療人になるため、そしてより質の高いチーム医療をつくり患者さんへ安全な医療を提供するためにも深い思いやりの気持ちを大切にし、地域の方々の健康づくりの貢献に努めたいです。

放射線部　**和田　智行**

初めまして。今年度より診療放射線技師として信州大学医学部附属病院に入職致しました、宮澤隆行と申します。私が入職してから早ひと月が経とうとしていますが、教科書だけでは学べない、患者様方への接し方や病院のスタッフの方々との連携など、うまくいかないことも多く勉強の毎日です。充実した環境のあるこの大学病院で経験を積み、患者様が安心して検査を受けることのできる放射線技師になるため、頑張って参りたいと思います。

どうぞよろしくお願い致します。　放射線部　**宮澤　隆行**

新人薬剤師として研修を受け現場に配属されて、社会人としての責任を重く感じると共に薬剤師としての知識、技能のレベルアップの必要性を痛感しています。これから、さらに業務が拡大していくことから、先輩薬剤師や他職種の先輩の方々から指導していただき、調剤だけではなく、患者さんへの服薬指導、病棟での薬剤管理についても自信を持って仕事を行っていける薬剤師になるために精進して行きたいと思います。

薬剤部　**百瀬　絵理**

今年４月より入職した作業療法士の佐藤正彬と申します。私は臨床経験二年目ですが、新しいことを学ぶことばかりで、環境に慣れるのに必死の毎日です。大学病院では、作業療法士として患者さんの生活行為へ寄り添う臨床を実践していきたいと思います。他の医療スタッフとも協働し、患者様によりよい医療が提供できるように、学び続ける姿勢を大切にして、日々努力していきたいと思います。よろしくお願いいたします。

リハビリテーション部　作業療法士　**佐藤　正彬**

私はこの春から、憧れだった信大病院の看護師として働き始め、ICUに配属されました。ICUへ入室される患者さんは、様々な疾患かつ重症な方が多く、コミュニケーションが取れない方も多くいらっしゃいます。戸惑いと不安でいっぱいですが、そのような患者さんだからこそ、看護師がケアを行い患者さんの療養を支えていくことが大切だと思います。また、患者さんのご家族も不安でいっぱいだと思います。患者さん、患者さんのご家族を支えられるよう日々勉強をし、より良い看護ができるよう頑張っていきたいです。

ICU　看護師　**萩原　愛美**

私はこの４月から東２階病棟で看護師として働いています。初めは看護師として、また社会人として働くことに不安と緊張でいっぱいでした。しかし、東２階病棟のみなさんが温かい雰囲気で迎えてくださり、優しく丁寧な指導をしてくださる先輩方や患者さんから様々なことを教えていただき、学ぶことの多さに圧倒されながらも充実した日々を送っています。慣れないことばかりでご迷惑をおかけしますが、早く一人前の看護師になれるよう一生懸命頑張りたいと思います。これからよろしくお願いします。

東２階病棟　看護師　**田中　彩恵**

信州大学病院では、教授や指導医の先生方のおかげで、医学と医療を学ぶことができます。多くのメディカルスタッフの方々のおかげで病棟業務ができます。きれいに清掃された病院で働けるのも、病院内で食事ができるのも、洗い立ての白衣を着ることができるのも、たくさんの方々の仕事のおかげです。このような信州大学病院全体の仕事の流れをイメージして、そのなかで、患者さんのために自分の任務を過不足なく果たせるようになることが、今年度の抱負です。どうぞ、よろしくお願いします。

１年目初期研修医　**青柳　誓悟**

臨床研究支援センター教授の挨拶

臨床研究支援センター副センター長・教授　**五十嵐　隆**

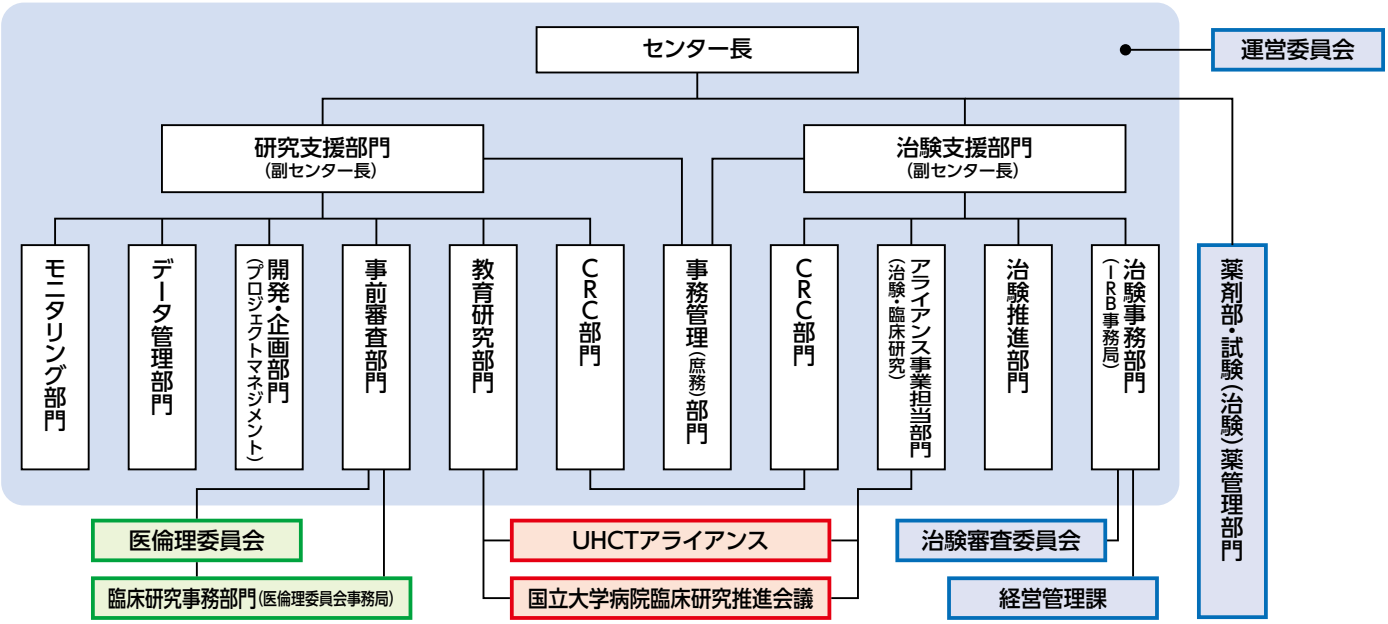
平成26年10月１日付で臨床研究支援センター教授（特定雇用）を拝命いたしました五十嵐隆です。当センターは従来の臨床試験センターを発展的に改組して、臨床研究支援部門を追加して平成26年10月１日に発足した組織です。

その背景として、最近の臨床研究を取りまく環境の変化があります。昨今、アカデミアの臨床研究において不適正事案が相次いで発覚し、データの信頼性が大きく揺らいでいることは周知のとおりです。その対応策として、アカデミアにおいて臨床研究を実施する場合の支援体制を整備することが喫緊の課題として求められました。また、臨床研究に関する倫理指針も大幅に改変され、平成27年４月から新倫理指針「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」が施行されました。新倫理指針では、一部の臨床研究は治験同様、法的拘束力も受けることになり、従来のものに比べ厳しいものになっております。

信州大学医学部附属病院では、臨床研究支援体制の整備充実が急務として、上記のセンターの改組に至りました。センターの名称も「臨床試験センター」から「臨床研究支援センター」に変更し、英語名ではCenter for Clinical Research、略称はCCRとしました。その組織は図に示しますように、従来の治験支援部門に加え、研究支援部門を新設し、新倫理指針で求められているモニタリングなど信頼性確保のための機能を設けました。本組織において、センター長は皮膚科教授の奥山隆平先生に併任いただき、治験支援部門および研究支援部門の責任者はそれぞれ松本和彦准教授と私です。

臨床研究にはいろいろな種類の試験がありますが、究極の目標は薬事承認です。治験同様、データの質の担保が不可欠であり、臨床研究の種類、リスクに応じて信頼性を確保することが必須です。臨床研究の計画から実施・報告書に至るプロセスの一元的支援を行うのが当センターの役割です。正しい臨床研究を行うには、生物統計専門家は欠かせません。当センターでは生物統計専門家を特任研究員としてお願いしております。当センターは組織として、発足してまだ半年足らずで、必ずしも当センターの機能は院内、学内において十分には認知されておられないと思います。当センターではオープンルームも開設しましたので、臨床研究を目指しておられる研究者の皆様におかれましては、何なりとご相談いただければ幸いです。

臨床研究支援センター　Shinshu CCR 体制



信州がんセンター緩和部門教授の挨拶

信州がんセンター緩和部門　**間宮　敬子**

2015年３月１日より信州大学医学部附属病院、信州がんセンター緩和部門　教授を拝命いたしました間宮と申します。どうぞよろしくお願い申し上げます。

私は香川県の出身で、島根医科大学卒業後、結婚相手が北海道人であったため、旭川医科大学麻酔・蘇生学教室に入局しました。2004年にアメリカでの研究留学から帰国したころから、麻酔科医、ペインクリニシャンとして働きながら、旭川医科大学の緩和ケアチームの一員として、緩和ケアの立ち上げに携わってまいりました。2009年には、緩和ケアという学問体系、緩和ケアのシステムの構築方法、教育方法を学ぶため、カナダのエドモントンでクリニカルフェローとして勤務させていただきました。

緩和ケアという分野は医学の中でも新しい分野です。WHOの定義では、「生命を脅かす病に関連する問題に直面している患者と家族の痛み、その他の身体的、心理社会的、スピリチュアルな問題を早期に同定し適切に評価し対応することを通して、苦痛を予防し緩和することにより、患者と家族の生活の質（QOL）を改善する取り組みである。」とあります。また緩和ケアは多職種で行う横断的な医療です。医師だけが頑張っても良い緩和ケアは提供できません。看護師、薬剤師、ソーシャルワーカー、理学療法士、作業療法士、臨床心理士、歯科衛生士、社会福祉士、栄養士、音楽療法士、チャプレンなど様々なスタッフが協力し、患者さんやその家族をサポートします。

信州大学で緩和ケアを実践するにあたり私は、緩和ケア教育の充実、地域と大学を結んだ緩和ケアのシステムの構築を目標にしていこうと考えています。

まずは教育ですが、2007年に成立した「がん対策推進基本計画」により、「すべてのがん診療に携わる医師が研修等により、緩和ケアについての基本的な知識を習得すること」が目標として掲げられ、全国各地で医師に対する緩和ケア研修会が開催されています。また、看護師のための研修会も立ち上がり、多くの医師、看護師、薬剤師、ソーシャルワーカーなどがこうした研修会に参加しており、ある程度の成果があがっています。一方で、緩和ケア、終末期医療は医学教育モデルコアカリキュラムに謳われていますが、医学生や研修医のための緩和ケア教育は確立されておりません。それゆえ、医師やメディカルスタッフに対する教育だけでなく、医学生、研修医に対する体系的な緩和ケア教育に力を注ぎたいと考えています。

次に緩和ケアシステムの構築です。まずは、地域で働く先生方の協力を得て、内科医、外科医、総合医（家庭医）、精神科医、麻酔科医など、多くの分野の医師が緩和ケアに関与できるような体制を作ることが急務と考えます。そして大学でも地域の現場でも、どの科を専門にしていても、長野県の医師全員が、同じ緩和ケアの視点を持って患者さんを評価し、ケアできる様になることを目指します。将来的には緩和ケアを専門分野として、地域に根付く緩和ケア専門医を育成し県全域に送り出す必要もあると考えます。

長野県の皆さんに、ここで医療を受けてよかったと思っていただけるような緩和ケアを提供できるよう、努力いたします。どうぞよろしくお願い申し上げます。

緩和ケアチーム

ひまわりサロン：がん患者とご家族のための語り合いの部屋

輸血後の感染症検査について

現在、日本における輸血用血液製剤は日本赤十字社の管理のもと安全性を確保するため、供給前に感染症の原因となるウイルスなどの検査により感染防止策が講じられております。

しかし、最新の検査技術に基づいて安全対策がなされたとしても、輸血後肝炎やエイズウイルスなど、感染リスクを完全になくすことはできません。

このため、保険診療である輸血療法においては、厚生労働省医薬食品局長通知に基づいて、最後に輸血を受けられておよそ３ヶ月経過した頃、輸血製剤による感染症の有無を調べる必要があります。

当院で輸血療法を受けられた患者さんについては、輸血を受けられてから３ヶ月経過した頃、輸血後感染症検査の案内を送付しております。

引き続き受診予定がある患者さんは、当院で検査をさせていただきます。

受診予定がない患者さんは、かかりつけ医でも保険診療にて輸血後感染症検査を受けていただくことができますので、送付された案内によりご相談ください。

検査費用は保険３割負担で約2600円です。

ご不明な点につきましては、医療支援課 医療支援係までお問い合わせください。

●本件事務担当：医療支援課　医療支援係

電話　0263-37-3176

「げんきのまど」を設置しました

２月20日（金）に、先日小児科病棟に設置された「げんきのまど」を活用したイベントを開催しました。「げんきのまど」は、社会貢献の一環として、名古屋の通信会社「中部テレコミュニケーション株式会社（ctc）」に無償で提供していただいた映像ネットワークシステムです。 今回のイベントでは、名古屋を拠点として活動しているアイドルグループと道化師が登場して、小児科に入院している子どもたちと双方向通信によって交流しました。

初めの自己紹介では緊張した様子の子どもたちも、クイズゲームをしているうちに打ち解けているようでした。クイズゲームでは、大人でも分からないような問題に正解すると、恥ずかしそうにメダルを受取っていました。

緊張も解けたところで登場した道化師は、瞬く間にバルーンアートを作っていき、その様子を子どもたちは食い入るように見入って、出来上がると大きな歓声を上げていました。

最後に剣のバルーンアートの作り方を教わった子どもたちは、早速家族の方と協力して作っていました。

今後も、入院中の子どもたちが元気になるようなイベントを沢山開催していきます。

東6階 病棟の紹介

東６階病棟 看護師長　大久保　敏子

東６階病棟は、“呼吸器センター”ともいわれ、呼吸器・感染症・アレルギー内科と呼吸器外科の患者さんが入院している病棟です。

人工呼吸器管理、手術療法や胸腔ドレナージ、内服や点滴による化学療法や薬物療法、放射線療法、酸素療法、呼吸リハビリテーションなどを行っています。

数年前から、ロボット支援手術（ダ・ヴィンチ）が行われています。従来の手術方法に比べ傷も小さめで侵襲も少なく入院期間が短くなっています。

呼吸器疾患によって日常生活動作で息切れや息苦しさが生じるため、在宅酸素療養（HOT）をされている患者さんもいます。年に２回、HOTの患者会を開催し、日常生活に役立つ学習会や患者同士の情報交換、レクレーションをしています。

呼吸の苦しさや痛みは、恐怖や不安を伴うので、安心して安楽な療養生活が送れるよう看護をしています。呼吸法を意識した日常生活動作の工夫や酸素ボンベの取り扱い方、栄養管理などが自己管理できるように支援しています。そして、患者さんやご家族の希望を伺いながら、社会復帰や在宅療養に向けた支援ができるように日々、努力しています。

ご意見函からの 声

本院ウェブサイトに外来受診予約者数の掲載を開始しました

信州大学医学部附属病院では、外来患者駐車場の混雑解消と、病院機能強化のための病棟増改築に備え、平成27年４月から９月の半年間で、同駐車場内に立体駐車場を建設いたします。工期中は外来駐車場の一部（215台分）が使用できなくなるため、現在以上に混雑することが予想されます。

そこで、本院ウェブサイトに１週間の外来受診予約者数（混雑具合）を掲載しお知らせすることで、公共交通機関の利用者が増え、少しでも外来駐車場の混雑が軽減できればと考えています。

なお、平成26年10月より、患者さんやご家族の利便性向上のため、路線バス（北市内西回り）の信大病院内への乗り入れを開始しています。松本駅東口の「松本駅お城口」発着です。ご不便をおかけしますが皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

URL：http://wwwhp.md.shinshu-u.ac.jp/

電話番号表（市外局番　0263）　代表番号：35-4600

【診療科外来】

南1階	小児科	37-2776
	遺伝子診療部	
	先端心臓血管病センター	
	循環器内科	37-2551
	整形外科	37-2785
	脳神経外科	
	総合診療科	
南2階	呼吸器・感染症・アレルギー内科	37-2768
	消化器内科	37-2770
	血液内科	37-2773
	腎臓内科	
	脳神経内科	
	リウマチ・膠原病内科	
	糖尿病・内分泌代謝内科	
	内科総合外来	
	放射線科	

南3階	眼科	37-2789
	耳鼻いんこう科	37-2791
	産科婦人科	37-2793
北2階	皮膚科	37-2778
	消化器外科	
	移植外科	
	小児外科	37-2781
	呼吸器外科	
	乳腺・内分泌外科	37-2783
	麻酔科蘇生科	
	形成外科	37-2831
北3階	精神科	37-2846
	子どものこころ診療部	37-3381
	泌尿器科	37-2787
	特殊歯科・口腔外科	37-2796

リハビリテーション部（理学療法）	37-2836
リハビリテーション部（作業療法）	37-3399
通院治療室	37-2552
医療福祉支援センター	37-3370
高度救命救急センター	37-2222
胸痛センター	
内視鏡センター	37-2803
臨床研究支援センター	37-3389
移植医療センター	37-2930

【医事課】

収入係	37-2763
入院係	37-2759
外来係	37-2757

【医療支援課】

患者サービス係（診断書・労災）	37-2762

【病棟スタッフステーション】

西病棟		階	東病棟	
【先端心臓血管病センター】 循環器内科 心臓血管外科	37-2777	8階	糖尿病・内分泌代謝内科 乳腺・内分泌外科	37-2769
脳神経内科、脳神経外科 リウマチ・膠原病内科	37-2774	7階	消化器内科、血液内科 腎臓内科	37-2771
皮膚科 泌尿器科	37-2788	6階	**【呼吸器センター】** 呼吸器・感染症・アレルギー内科 呼吸器外科	37-2784
消化器外科、消化器内科 移植外科、小児外科	37-2782	5階	眼科、脳神経外科 麻酔科蘇生科	37-2790
産科婦人科 新生児科（NICU・GCU）	37-2772	4階	小児科 婦人科	37-2794
精神科 子どものこころ診療部	37-2775	3階	整形外科	37-2786
放射線科、消化器外科、移植外科 小児外科、特殊歯科・口腔外科、RI 信州がんセンター、救急科	37-2780	2階	耳鼻いんこう科 形成外科	37-2792

くすりの相談室	37-3013	地域医療連携支援室	37-3370
総合医療相談室	37-3370	難病相談支援センター	34-6587
がん相談支援センター	37-3045	難聴児支援センター	34-6588
セカンドオピニオン外来	37-3111	肝疾患診療相談センター	37-2922
先端細胞治療センター（分子細胞診療室）	37-3220		

☆相談窓口☆
受付時間：月～金（祝除く）
9時～16時

編集後記

今年の春は、少し早い桜の開花となりました。外来駐車場の桜のつぼみがほころび始めた頃、信大病院には今年もたくさんのフレッシュな職員が加わって活気に満ちました。本号では院内の新しい部門の教授の挨拶も掲載しております。常に組織の充実を図って、よりよい医療の提供と医学の発展に貢献したいという病院の姿勢を感じていただけたらと思います。職員一人ひとりが初心を胸に、来院される皆様から育てられ愛され続ける病院として、より強くしっかりとした根を張っていきたいとの思いを込めて、ハミング71号をお届けします。

（小児科　稲葉 雄二）

あなたの自慢の写真で「ハミング」の表紙を飾りませんか？ 写真を募集しております！

お名前・写真のタイトルをご記入の上、
ctc@shinshu-u.ac.jp へお送りください。
写真は 2MB 以上 5MB 未満の jpg データ

【お問合せ・応募宛先】
信州大学医学部附属病院　総務課　卒後臨床研修係
TEL：0263-37-3050
※応募はメールのみ受付

発　行　信州大学医学部附属病院　広報室　松本市旭 3-1-1　電話 37-3050